

昭和二十二年七月—九月
日本銀行勘定に依る日本銀行券膨張原因分析

一、七月中の日本銀行券膨張原因分析
(1) 七月中に於ける日本銀行勘定の増減を見るに次の通りである。

資産		負債	
政府貸上金	(+) 二六、〇七四	日本銀行券	(+) 七、四二五
貸出金	(-) 二、九一五	政府預金	(+) 五、八〇五
国債其他証券	(-) 九、六五七	当座預金	(+) 一五八
内訳		其他預金	(+) 三四九
〔政府関係〕	(+) 一三、五四〇	其他	(+) 一五二
〔民間関係〕	(-) 三、八八三		
本支店政府勘定	(-) 二〇六	計	(+) 一三、八八九
代理店勘定	(-) 一七八		
仮払金	(+) 一五九		
其他	(+) 六一二		
計	(+) 一三、八八九		

(2) 右によれば政府との取引に因つて流出した日本銀行券は六十六億六千万円(八九・七%)、民間との取引に因つて流出したそれは七億六千五百万円(一〇・三%)となる。

◎対政府関係 六、六六〇 (単位 百万円)

(算定の基礎)

政府貸上金	(+) 二六、〇七四	引	金資金特別会計	三四七
国債其他証券	(-) 一三、五四〇	受	より買入	一九
			国債整理基金特	一
			別会計へ売却	
			計	三六五

◎対民間関係 七六五 (単位 百万円)

(算定の基礎)

大藏省証券	(-) 一四、三〇五	市中銀行等より買入、内戦保	一八〇	
食糧証券	(+) 四〇〇	補償国債	一五〇	
本支店政府勘定	(-) 二〇六	復興金融庫より買入	一五〇	
代理店勘定	(+) 九	復興金融庫へ	一五〇	
仮払金	(+) 一三二	日本証券取引所	一五	
其他	(-) 四	引	市中銀行への売却	四、七七三
政府預金	(+) 五、八〇五	超	計	一一九
計	七六五			

(3) 然し右の対政府関係に含まれている預金部の収支中、郵便貯金等純民間関係と見做される収支を見るに、前月に引き続き郵便貯金が増加したため、三千八百万円の受入超過となつてゐるから、之を政府関係に加え、民間関係より控除す

る。又、政府資金撤布額中農林中央金庫に対する食糧買入代金前渡金は必ずしも月中に於ける食糧買入支払金と一致せず、余裕ある場合は民間資金として使用せられ、不足せる時は一時同金庫が立替えることとなつてゐるが、今月中に於ては同金庫前渡金勘定は四億一千三百万円の減少を見てゐるから、之は政府資金の立替払と見て民間関係より政府関係に移す。かくて対政府関係に基づく日本銀行券流出額は七十一億一千一百万円(九五・七%)対民間関係に基づくそれは三億一千四百万円(四・三%)となる。かくの如く政府関係に基づく流出額が圧倒的に多いのは終戦処理費、食糧管理、貿易資金等の支払が激増したため、租税、鉄道収入の増加にも拘らず政府資金支払超過額が七十億円に上つたこと、民間関係に於ては復興金融庫の炭礦、公団等に対する大口貸出資金並に政府資金が市中金融機関に還流し、市中金融機関の手許が大いに緩和したため本行貸出が月中二十九億円の減少を見たことによつてゐる。

尚政府関係中政府貸上金が激増し国債其他証券が減少を見てゐるが、之は昭和二十一年度に於ける大蔵省証券残高百八十二億円を全額償還する為め、臨時軍事費分七十億円、財産税等収入金特別会計百二十五億円その他を本行より借入れたことに基いてゐる。(黒崎)

二、八月中の日本銀行券膨張原因分析

(1) 八月中に於ける日本銀行勘定の増減を見るに次の通りである。

資 産		負 債	
政府貸上金	(+) 一、〇〇〇	日本銀行券	(+) 六、九三八
貸 出 金	(-) 四、三八三	政 府 預 金	(-) 四、七九四
国債其他証券	(+) 八、四六三	当 座 預 金	(+) 三、一〇四
内訳		其 他 預 金	(+) 六六八
政府関係	(+) 三、三五五	本支店政府勘定	(+) 七九二
民間関係	(+) 五、一〇八	其 他	(+) 二一九
代理店勘定	(-) 五		
飯 払 金	(+) 七八		
其 他	(+) 一、七七四		
計	(+) 六、九二七	計	(+) 六、九二七

日本銀行券増減原因分析 昭和二十二年七月—九月

(2) 右によれば政府との取引に因つて流出した日本銀行券は八十六億一千八百万円に上るのに対し民間との取引に於ては却つて十六億八千万円の収縮を見たこととなる。

◎対政府関係 (算定の基礎) (単位 百万円)

政府貸上金	(+) 一、〇〇〇
国債其他証券	(+) 三、三五五
食糧証券	(+) 三、三四五
代理店勘定	(+) 九
飯 払 金	(+) 九二
其 他	(+) 一六〇
政府預金	(-) 四、七九四
本支店政府勘定	(+) 七九二
計	(-) 一、六八〇

(金資金特別会計より買入) 六、八九〇
 引 受 還 一、九九五
 償 預金部へ売却超 一、五五〇

◎対民間関係 (算定の基礎) (単位 百万円)

貸 出 金	(-) 四、三八三	市中銀行等より買入、内戦保	(-) 二二二
国債其他証券	(+) 五、一〇八	補償国債	(-) 二〇五
食糧証券	(-) 三〇	復興金融庫より買入超	(-) 二三五
復興金融債券	(+) 四、四二一	市中銀行等へ売却超	(-) 四、三七二
代理店勘定	(-) 一四	市中銀行より買入超	(-) 四九
飯 払 金	(-) 一四		
当 座 預 金	(+) 三、一〇四		
其 他 預 金	(+) 六六八		
計	(+) 六、九二七		

其 他 (一) 一、三九五

(3) 然し右の対政府関係に含まれている預金部の収支中、郵便貯金等純民間関係と見做されるものゝ受入超過は四億二千六百万円に上つてゐるから、之を政府関係に加え民間関係より控除すると共に、政府資金撤布額中農林中央金庫に対する食糧買入代金前渡金は月中全額が食糧買入に使用せられることなく、一部は民間資金として利用せられてゐるから、未使用額たる農林中央金庫の前渡金勘定の月中増加額五億九千一百万円を政府関係より民間関係に移せば、対政府関係に基づく日本銀行券流出額は八十四億五千三百万円となり、対民間関係に基づく収縮額は十五億一千五百万円となる。かくの如く政府関係に基づく流出額が月中日本銀行券膨張額を遙かに上廻つてゐるのは終戦処理費、食糧管理、貿易資金等支出が前月に引続き多額に上つたため、政府資金撤布超過額が九十三億円に達したことによるもので、他方民間関係に於て却て収縮を示しているのは巨額の政府資金撤布と復興金融庫貸出に潤つた市中金融機関が前月同様本行よりの借入金返済を行つたことによつてゐる。従つて最近の銀行券膨張は政府資金支払超過と復興金融債券の本行引受によるものと云えよう。(黒崎)

三、九月中の日本銀行券膨張原因分析

(1) 九月中に於ける日本銀行勘定の増減を見るに次の通りである。

資 産		負 債	
政府貸上金	(+) 一、〇八〇	日本銀行券	(+) 五、七三三
貸 出 金	(-) 三、〇〇四	政 府 預 金	(-) 一、一五二
国債其他証券	(+) 六、三三九	当 座 預 金	(+) 一八二
内訳 (政府関係)	(+) 四、〇五七	其 他 預 金	(+) 五七四
内訳 (民間関係)	(+) 二、二八二	其 他	(+) 九三七
本支店政府勘定	(+) 一、一八二		
代理店勘定	(+) 三三二		
坂 金	(+) 一二五		
其 他	(+) 一八〇		
計	(+) 六、二七四	計	(+) 六、二七四

(単位 百万円)

(2) 右によれば政府との取引に因つて流出した日本銀行券は七十六億九千四百万円に上るのに対し民間との取引に於ては却つて十九億六千一百万円の収縮を見たこととなる。

◎対政府関係 (算定の基礎) (単位 百万円)

政府貸上金	(+) 一、〇八〇	大蔵省証券	(+) 三、五〇〇	引 受	八、三二〇
国債其他証券	(+) 四、〇五七	食糧証券	(+) 五五七	預金部へ売却超	四、二六三
本支店政府勘定	(+) 一、一八二				三、五〇〇
代理店勘定	(+) 五				
坂 金	(+) 一一六				
政府預金	(-) 一、一五二				
其 他	(-) 一〇二				
計	(-) 一、九六一				

◎対民間関係 (算定の基礎) (単位 百万円)

貸 出 金	(-) 三、〇〇四	市中銀行等より買入、内戦保	八二
国債其他証券	(+) 二、三二二	補償国債	八二
国 債	(+) 一九二	市中銀行等へ売	一、三八七
食糧証券	(-) 二、二三四	復興金融庫へ	八四七
復興金融債券	(+) 四、三六四	市中銀行等へ売	四、三七五
本支店政府勘定	(+) 三二七	引超	一一
代理店勘定	(+) 九	市中銀行等へ売	
坂 金	(+) 一八二		
当座預金	(+) 五七四		
其他預金	(+) 九三七		
計	(+) 五七四		

其 他 (H) 八五九

(3) 然し乍ら右の対政府関係に含まれている預金部収支中、郵便貯金等純民間関係資金と見做されるものゝ収入超過一億七千八百万円を民間関係より差引き政府関係に加えると共に、対民間関係に含まれている貸出金中、新規発行国債引受資金として証券業者に対し貸出せる金額一千八百万円は政府に対する信用創造に外ならない故、之を民間関係より政府関係に移さなければならぬ。

更に政府資金撤布額中、農林中央金庫に対する食糧買入代金前渡金は月中全額が食糧買入に使用せられず一部は民間資金として利用せられているから、未使用高たる農林中央金庫の前渡金勘定の月中増加額二十九億三千九百万円を政府関係より控除し民間関係に加えなければならない。

かくて対政府関係に基く流出額は四十九億円(八六%)、対民間関係に基く流出額は八億円(一四%)となるが、政府関係に基く流出額が前月に引続き圧倒的に多いのは政府資金撤布額が五十九億円に上り、他方本行貸出が三十億円減少したことに因る。(黒崎)

昭和二十二年十月—十二月

日本銀行勘定に依る日本銀行券膨脹原因分析

一、十月中の日本銀行券膨脹原因分析

(1) 十月中に於ける日本銀行勘定の増減を見るに次の通りである。

資 産		負 債	
政府貸上金	(+) 四、一三一	日本銀行券	(+) 一一、二四八
貸 出 金	(+) 一、八四一	政 府 預 金	(+) 一、六七七
国債其他証券	(+) 九、六〇二	当 座 預 金	(+) 二、一六八
内訳		其 他 預 金	(+) 九一八
政府関係	(+) 六、五六四	其 他	(+) 一七八
民間関係	(+) 三、〇三八		
本支店政府勘定	(-) 二六四		
代理店勘定	(+) 五六二		

(単位 百万円)

日本銀行券増減原因分析 昭和二十二年十月—十二月

仮 払 金 (H) 二八
其 他 (H) 二八九
計 (H) 一六、一八九
計 (H) 一六、一八九

(2) 右によれば政府との取引に因つて流出した日本銀行券は八十八億三千二百万円(七八・五%)、民間との取引に因つて流出したそれは二十四億一千六百万円(二一・五%)となる。

◎対政府関係 八、八三一 (単位 百万円)

(算定の基礎)

政府貸上金	(+) 四、一三一		
国債其他証券	(+) 六、五六四		
大蔵省証券	(+) 二、七〇〇	(+) 五八	(金資金特別会計より買入)
食糧証券	(+) 三、八〇六		引受 七、一六五
			還入 四、三五九
			超預金部より買入 一、〇〇〇

本支店政府勘定 (-) 二六四
代理店勘定 (+) 七
仮 払 金 (+) 二二
其 他 (+) 三七

政府預金 (+) 一、六七七
其 他 (-) 一一

◎対民間関係 二、四一六 (単位 百万円)

(算定の基礎)

貸 出 金	(+) 一、八四一
国債其他証券	(+) 三、〇三八